

日本：貿易統計（2017年1月）

— 春節要因から1月の輸出は一時的に伸び鈍化 —

MRI Daily Economic Points

February 20, 2017

貿易収支

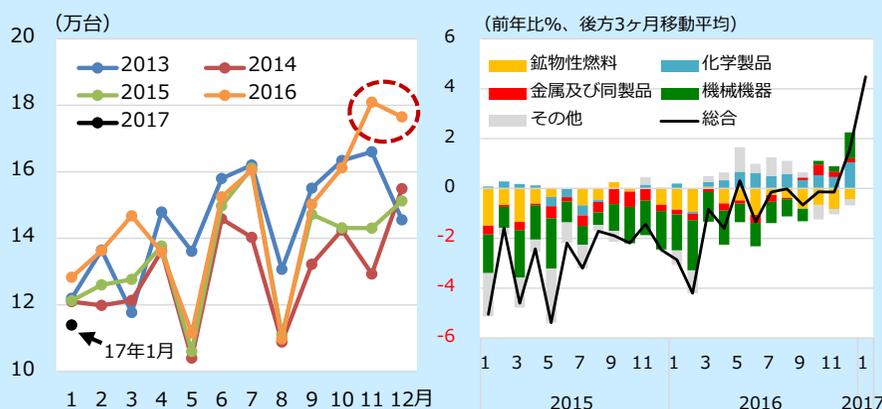
輸出額の寄与度分解



出所：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

米国向け自動車輸出

品目別の輸入数量



出所：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

評価ポイント

2017年1月の結果

- 17年1月の貿易統計は、輸出が前年比+1.3%と2ヶ月連続で増加。輸入は同+8.5%と25ヶ月ぶりの増加。貿易収支は▲1兆869億円の赤字となり、前年(▲6,477億円)から赤字幅が拡大した。季調値では+1,555億円と15ヶ月連続で黒字となったものの、2ヶ月連続で黒字幅が縮小。
- 輸出は、価格が前年比+1.6%伸びており、数量は同▲0.3%と小幅ながらマイナスに転じた(前月は同+8.4%)。中国などアジア向けの伸びが鈍化した影響が大きい。世界的なITサイクルの改善などからアジア経済は堅調に推移しているものの、春節が下振れ要因となった。春節が昨年より早まり(16年：2/7-13→17年：1/27-2/2)、期間中の工場などの稼働停止に伴い、1月の日本からの輸出が抑えられた可能性が高い。1-2月は均してみる必要がある。
- 米国向けの輸出数量も同▲5.1%と3ヶ月ぶりに減少。主力の自動車輸出が減少に転じたが、自動車輸出は、16年末に高い伸びをみせており、その反動で一時的に減少した可能性が高い。
- 輸入は持ち直しの動きが強まっている。輸入価格が、円安の進行などを背景に同+2.2%と25ヶ月ぶりに増加に転じたほか、輸入数量も増加に転じている。前年の減少幅が大きかった反動に加え、国内生産の持ち直しなどを背景に、電気機器や化学製品、金属などの輸入が増加している。

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、春節要因により一時的に伸びが鈍化しているものの、世界的なITサイクルの改善などから基調としては持ち直している。
- 先行きの輸出は、基本的には、米国経済の堅調持続やアジア地域の持ち直しに伴い、緩やかな回復が続くと見込む。ただし、米国の保護主義的な政策への転換が明確化しつつあり、世界の貿易に対する悪影響が懸念される。